

群馬詩人クラブ

会報

No. 295

編集／群馬詩人クラブ幹事会

代表／磯貝優子

発行／群馬詩人クラブ事務局

〒370-3504

北群馬郡榛東村広馬場1067-2

現代詩資料館「榛名まほろば」内

印刷 三協印刷

振替番号 00160-4-708314 中澤陸士

主な記事

- 総会報告 ..... 2
- 秋の詩祭報告・北畑光男氏講演 ..... 2  
「朔太郎から村上昭夫まで」
- 第53回 群馬県文学賞受賞 ..... 4  
「青ざめた碑」 本間修一
- 新入会員紹介 ..... 5
- インフォメーション ..... 5
- 年刊詩集販売案内 ..... 5
- 新幹事紹介／事務局移転のお知らせ  
／会計担当交替のお知らせ ..... 6
- 受贈詩誌御礼／編集後記 ..... 6

新しい年の活動にあたって 磯貝優子

新しい年、二〇一六年は、戦後七十一年にあたるが、昨年は国内外を問わずさまざまな事件が起こり、多くの人命が失われた。穏やかな日常は激しく揺れて不安な感じがぬぐいされない。

こんな時に、現在の群馬県の詩的情况、先達詩人の偉業及び遺産など不勉強な私が幹事代表という大役を受けることとなった。時代に合わせておおよそ何ができるかはわかるはずもなく、途方にくれている始末ではあるが、「東照公遺訓」の中の言葉を胸にして、「急ぐべからず」とも言い聞かせ歩み出している。他の新幹事の方は、前向きで協力的、事業などの実務にも秀でている。すべてをよく心得ていることにおいて誠に有り難いと思う。

これまでの運営に関わった方々にも感謝しながらできるだけの努力をしたい。

群馬詩人クラブは、昭和三十二年（一九五七）に発足、会報も本号が二九五号となり、やがて六十年の節目を迎える。会則を見ると、目的が明記されている。

【群馬県内在住または出身の詩人及び詩の読者の共通の場として、詩の創造について相互の研究を深め、詩の社会的機能を発展させ、県内の詩活動に寄与することを目的とする。】各詩誌に所属する人や個人として詩作に励んでいる人、詩に関心を持っている人の交流の場であり、学びの場でもあろうか。その場のために、昨年は充実した会報や六十人を超える人たちの作品を集めた年刊詩集の発行、ま

た特色ある詩画展と朗読会などが実施されたが、目的を実現するための意義深い事業であった。

今年も総会においていただいたご意見を参考にしながら、議決された事業案に関わる仕事を着実に進めることが私たちに課せられて考えている。

今、時代は大きな変革期を迎えている。税制、原発、社会福祉、憲法などから眼が離せない。無関心ではいられないことが多い。詩は元々個人のものであるが、さまざまな社会的な環境の中で内面からわきあがってくる発信するという形での作品作りがあり、それを誰かに読んでもらえることで作品の意義が生まれる。どんなにやさしい日常の言葉でかかれてあっても、その中に世界を包み込んでいるような詩、新しい発見や未来への洞察、人間的な真実、そういうものが描かれている詩が望まれるし、そういう詩が書ければ、人が読んだ時共感してもらえる。私自身が同人誌に参加してきて得られたことはそんなことが中心であつたらうか。

最近では、深い思想そのものを研究してそれを詩の表現の土台とする人や自らをよく見つめその立ち位置を言葉にする人や詩風を育てようと堅実に努力をしている人を見受ける。どんな詩に出会えるかも群馬詩人クラブに寄せる期待でありたい。

## 平成27年度 総会報告

平成27年11月23日(月・祝)、前橋テルサにおいて総会及び秋の詩祭が開催された。

総会は、当日欠席の平野秀哉代表幹事に代わって志村喜代子幹事からの挨拶の後、田口三船氏が議長に選出され、議事に入った。

1号議案二七年度事業報告は、高田秀美幹事より、会報発行、現代詩作品展、年刊詩集の発行等の事業の報告がされた。

2号議案会計報告は狩野務幹事よりなされ、監査報告を経て、拍手で承認された。

続いて、3号議案の二八年度事業計画案及び4号議案の二八年度予算案について、井上敬二新幹事、中澤睦士新幹事より、それぞれ説明・提案がされた。

その後の質疑・応答の中で、樋口氏より、「会員の高齢化が進んでいる現状を考えると、幹事10名を揃えるのは大変ではないか、また会報の発行回数を減らし、内容を充実する方向で考えていってもよいのではないか」との問題提起、提案がなされた。会員の拡大も含め、新幹事を中心に取り組むべき課題であることが確認され、総会が終了した。

引き続き行われた「秋の詩祭」では、北畑光男氏による講演が行われた。

講演終了後、前橋テルサ一階オルヴィエターナに会場を移し、懇親会が行われた。多数の出席があり盛会のうちに幕を閉じた。

## 秋の詩祭報告

## 北畑光男氏 講演 「朔太郎から村上昭夫まで」

群馬詩人クラブの第二八回「秋の詩祭」が、平成二七年度総会終了後開催されました。

今年度は、埼玉県在住の詩人、日本現代詩人会前理事長の北畑光男氏をお迎えし、「朔太郎から村上昭夫まで」という演題で講演していただきました。氏の生い立ちから詩との出会い、詩人村上昭夫に受けた影響、萩原朔太郎や群馬との接点、自作の書き換えなどについて、大変興味深いお話を伺うことができました。以下はその概要です。

## (一) 自分の詩の歩み

私は岩手県下閉伊郡岩泉町の出身で、海のない山奥で過ごしていました。ランブの生活、枯葉がクツシヨンとなった林、下駄スケート、水結した川に釘で穴をあけて飲んだ水のことなどが記憶に残っています。

父が勤めていた炭鉱が廃坑となり、私たち家族はあてもなく盛岡に出てきて、初めて電気のある生活を経験しました。父は鯉節の行商をしましたが体をこわし、母が神奈川に出稼ぎに行っていました。生活は苦しく、私も子どもながら新聞配りや豆腐売りをしていました。この頃、「疎外」という言葉を知り、「自分を見つめる」ということについて考え始めました。

小学校卒業後、盛岡農業高校へ進学しました。さらに勉強がしたくて、上京して新聞店に住み込み働きながら予備校に行き、翌年北海道の酪農学園大学に入学しました。

札幌でも新聞店に住み込んで新聞配達をしながら大学に通いました。窓の外の原始林を吹いてくる風が心を揺さぶり、何かを訴えかけてくるように感じた大学生活でした。

詩は当時大変なブームで、本屋には詩のコーナーが必ずありました。最初に触れたのは郷里の詩人ということもあり石川啄木でした。高校生の頃から啄木は好きでしたが、読んでいくうちに、「自分は許される」という意識がある啄木のようにできないと感じていました。

一方、宮沢賢治は、言葉が光を帯びている感じがしました。聞き慣れた方言でもあり、詩は立体的でした。「農民芸術概論」は、農民にとって過酷な岩手という土地柄をよく知る、夢多き青年賢治の思いが込められたもので、農民には出てこない発想だと思いました。また、萩原朔太郎の詩に出会い、人間の内面を問い詰めたところから書いている、ここに本当の詩があると思ひ、共感し、夢中で読みました。資料にある「猫」は、朔太郎の作



講師 北畑光男氏

度秋  
7年  
28回  
平成2  
年第

風に似ています。こんな作品を書いていた時代もありました。他に、蔵原伸二郎や村野四郎の詩にひかれていました。

(二) 村上昭夫のこと

そんな頃、本屋でふと手に取ったのが村上昭夫の詩集『動物哀歌』でした。言葉が光っていて、後にも先にもないくらい私の心を激しく揺さぶりました。

村上昭夫は昭和二年生まれ、昭和四三年に四一歳で亡くなっています。岩手中学在籍時に学徒動員、直後満州に渡り満州国官吏となつてまもなく終戦を迎えます。ソ連軍に捕まり拷問や強制労働を体験し、日本兵のおびただしい死体を見て、戦争の悲惨さを実感します。二十歳未満だったため解放され、昭和二十一年秋に帰国しました。

昭和二十二年一月、昭夫は盛岡郵便局に事務員として採用されます。職場の労働組合の機

関誌の編集長をして、そこに小説や詩を発表していました。

ところが、昭和二五年二三歳の春に結核を発病します。サナトリウム入院後は盛んに俳句を作り、また同じ病院に入院してきた詩人高橋昭八郎に、ノートに書きためていた詩を見せています。私も残っていたノートを見る機会がありました。まだ作品は稚拙なものでした。昭八郎が紹介した詩の中で、昭夫は田村隆一、高橋新吉に興味を持ったようです。資料に載せた「五億年」「黒いこおろぎ」には、新吉からの影響が見取れます。言いたいことを直裁に差し出す新吉に対し、知的な感性による、骨格を持った作品になっています。永遠を自分の中に取り込もうとする、闘病中の昭夫の姿がここにあります。闘いの中で見つけた「世界はまだできあがらない／黒いこおろぎなのだ」という認識は、日常を超えた心霊的なものです。

昭夫の作品には、幻視、幻聴のようなものが書かれています。それは人間が生物として本来持っているものかも知れません。科学技術では解決しえないものかもしれません。『遠野物語』や東日本大震災の津波被災者の手記に出てくる、心霊的な「心の現実」は、書き残されたことで受け継がれていきます。ユングは、芸術家とは個人をはるかに超えて人類全体の精神と魂を語るものであり、それを語る人こそ本物の詩人であると言っています。満州体験や闘病体験をもとに、まだ名付けが

たい深淵を作品にした村上昭夫の「発見」がここにあります。

彼の日記の最後には「村上昭夫がらばった」とありました。詩集『動物哀歌』は、土井晩翠賞、日氏賞を受賞しましたが、贈呈式に本人の姿はありませんでした。

(三) 自分の詩について

私は上里町に住んでいますので、川を越えれば群馬県です。群馬詩人クラブ会報に載せた「八月の広瀬川」など、群馬に関する作品をいくつも書いています。同じく会報に載せた「指紋の銀河」は、私が群馬大病院に入院していた時に隣のベッドにいた人のことを書いたものです。腕を切断する前日に病院内でギターコンサートをした人です。

最後に、私が作品をどんなふうに変化させていくかをお話しします。会報に載せた「足うらのやみ」という作品が最初に書いたものです。小雨の降る中、傘をさしライトをつけて農道を歩いていたら、こおろぎが何かわびるかのようにして、死んだ仲間の体液を吸っていました。大岡昇平の小説の影響なのか、先日見た特攻隊を扱った映画のせいなのか、戦争のことを思いながら書いていたら言葉が削られてきて、本日の資料にある「挽歌」になってしまいました。

今日は、自分が詩をどう読み、どう書いてきたかを話させていただきました。これまでに詩集を八冊出しています。

(文責 伊藤信一)

第五十三回

群馬県文学賞 (詩部門)

青ざめた碑

本間 修一

歳月の落葉が礎石を埋めている

ここにも一つ

青ざめた記念碑がある

ここには太平洋戦の跡はない  
今も続く海の向こうの戦さの砲煙は  
見えない

背丈を超える大きさの  
凱旋記念碑

鎮守の杜の木立ちの中

かえりみる人もなく

大正九年四月十日

石工田部井有年が刻み込んだ

「日清戦役」

「日露戦役」

「西比利亜従軍者」

十三人の名前 肩書 勲等

戦死者は一人

「近衛歩兵一等卒勲八等 川島国蔵」

生者の誇りも

死者の恨みも消えて

青ざめた碑がしじまの中に  
立ちつくしている

刻印された十四人の名が  
息をひそめて語っている

いかなる高揚も忘らるべし  
愚かなるなんじもただ生くべし

本間修一 略歴

東京都出身

二〇一五年 第五〇回上毛文学賞

二〇一五年 第五三回群馬県文学賞

経歴

毎日新聞記者

大筒野特定郵便局長

退職後「僕の落第日記」(天声人語が紹介)

現在 「裳の会」同人

新入会員紹介

恥をさらす

本間修一

今年はいらいことになりました。

詩はよむもの。落書きのような調子で、ときどき書くものでした。

ちよつとした心の迷いで、二年ほど前から上毛新聞の詩壇に投稿を始めました。

選者の曾根ヨシさんに拾われたのが機縁で、二つも賞を頂く好運に恵まりました。

詩は、自分を鏡に映すように、恥ずかしいところや醜いところを遠慮なくさらします。

批判や批評の矢を受けることも覚悟しなければなりません。

けれども、書かずにはいられないミュージズの神の誘惑は拒絶しがたく、書く事の言いがたい満足感と、書いたものが共感を得たときの喜びは、生きる勇氣になります。

多分あらゆる邪悪なものに対する、僕のような弱い人間にとっての武器なのかもしれません。

お誘いを受けて、仲間に入れさせていただくことを光栄に思います。たくさんの恥や醜さもあえてさらして行く覚悟です。

できることならば、厳しい目の中にも、一点の優しいまなざしを留めて下されまことを。

を。

インフォメーション

高崎現代詩の会主催

〔第9回 詩の朗読会のご案内〕

浅き春に詩を味わう

日時 平成二十八年二月二十八日(日)

午後二時~四時

場所 〇二〇 あすなろ 2階

〒370-0827

高崎市鞆町七三番地

☎027-384-2386

会費 無料

(ただし、お一人様一品以上のオーダーを)

お問い合わせ

副会長・福田誠まで

〒379-0116

安中市安中三一七

☎& FAX 027-382-2329

(あすなろへのお問い合わせはご遠慮ください)

\*読むのは、自作詩でもそれ以外でもかまいません。もちろん聴くだけでもOKです。

\*BGMが必要な方は、CD等のご用意を。

\*会員以外のご参加も大歓迎!

事前の申し込みは不要です。

皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください。

二〇一五年

『群馬年刊詩集第二十八集』

販売のご案内

群馬詩人クラブ刊行『群馬年刊詩集第三十八集』を次の要領で販売します。

内容

詩作品 六十五篇

追悼 宮崎 清

「宮崎清氏追悼」梁瀬和男

久保田 穰

「追悼・久保田穰」大塚史朗

表紙装画 山上久子

発行

〒370-3102 群馬県高崎市箕郷町

生原一七三〇龍昌寺

平野秀哉方

群馬詩人クラブ幹事会

印刷 三協印刷

頒布

二〇〇〇円 会員は一〇〇〇円

いずれも郵送費は別料金となります。

※問い合わせおよび購入希望は幹事会へご連絡ください。

(☎027-371-3472)

【新幹事紹介】

平成二七年度総会で選出された新幹事と担当を紹介させていただきます。

- 代表幹事 磯貝 優子
- 会報担当 金井 治子 金井 裕美子
- 佐伯 圭
- 会計担当 中澤 睦士
- 事業担当 内田 範子 関根 由美子
- 井上 敬二
- 年刊詩集担当 斎藤 守弘 富沢 智

以上のメンバーで二年間担当させていただきます。会員の皆様にはご協力の程よろしくお願いたします。

事務局移転のお知らせ

幹事改選に伴い、群馬詩人クラブの事務局を移転します。今回、諸事情により、事務局を現代詩資料館「榛名まほろば」に置くことになりました。

お問い合わせ、資料の送付等は、以下の住所に宛ててお願いいたします。

〒三七〇―二三五〇四

群馬県北群馬郡榛東村広馬場一〇六七―二

現代詩資料館「榛名まほろば」内

群馬詩人クラブ事務局

☎〇二七九―五五〇六六五

【会計担当交替のお知らせ】

このたびの幹事改選に伴い、中澤睦士があらたに会計担当となりました。新しい口座番号は左記の通りです。

0016004708314 中澤睦士  
会費は年間3,000円です。

来年度までの会費を振り込んでいない方は、同封の振込用紙にて振込をお願いします。

受贈誌誌御礼

\*御惠贈感謝いたします。

- 日本現代詩人会報 140
- 福岡県詩人会報 163
- 兵庫県現代詩協会会報 38
- 宮城の現代詩 2015 宮城県詩人会
- 宮城県詩人会会報 22
- 福井県詩人懇話会会報 90
- 年刊詩集ふくい 2015 福井県詩人懇話会
- 岩手県詩人クラブ会報 89
- 香川県詩集 第19集 香川県詩人協会
- 山形県詩人会会報 29
- とっとり詩人 鳥取県現代詩人協会会報 33
- 岡山県詩人協会だより 16
- 大分県詩人協会会報 144
- いちご通信 (大分県詩人連盟会報 13)
- 鳥取県詩人連合会報 79
- 静岡県詩人 126 静岡県詩人会
- みえ現代詩 97 みえ現代詩の会
- 千葉県詩集 48集 千葉県詩人クラブ
- 福島県現代詩人会会報 111
- 中日詩人集 55 中日詩人会

茨城県詩人協会会報 21

- 茨城県詩人協会の歩み(創立10周年記念誌)
- 長野県詩集 48 長野県詩人協会
- 山梨県詩人会会報 16
- けやき 49 けやきの会
- 千葉県詩集第47集 千葉県詩人クラブ
- 季刊詩誌詩的現代 11 詩的現代の会
- 燎 4 志村喜代子
- SUKANPO 17 田口三船
- 兵庫県現代詩協会会報 36

(二月八日現在 敬称略)

◆◆◆編集後記◆◆◆

会報を編集しているこの年末・年始、群馬の平野部は穏やかな日々が続きました。けれども、テヘランでの大使館襲撃を発端としてイランとサウジアラビアなどの関係が悪化し、北朝鮮の水爆と主張する核実験を巡って国連安保理で、また日本も独自に制裁を課す話が進んでいます。世界情勢の変化は予断を許さないものとなりそうです。

幹事の改選に伴い、金井治子、金井裕美子、佐伯圭の三名が会報担当となりました。群馬詩人クラブやその周囲の動きを紹介するとともに、会員の皆様に開かれた会報にしていきたいと考えています。皆様の投稿もお待ちしています。何かと行き届かない点もあると思いますが、どうぞよろしくお願いたします。(佐伯 圭)